

2021年2月9日

上場会社名 明治ホールディングス株式会社
 コード番号 2269 URL <https://www.meiji.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO
 問合せ先責任者 (役職名) IR広報部長
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日

上場取引所 東

(氏名) 川村 和夫
 (氏名) 山縣 洋一郎

TEL 03-3273-3917

配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	900,728	5.3	83,227	3.6	84,384	3.2	49,407	5.8
2020年3月期第3四半期	951,183	0.1	80,330	0.9	81,783	1.1	52,443	15.3

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 58,275百万円 (9.8%) 2020年3月期第3四半期 53,070百万円 (16.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	340.54	
2020年3月期第3四半期	361.54	

(注) 2021年3月期第1四半期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2020年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	1,096,698	632,423	54.2	4,099.35
2020年3月期	998,920	597,573	56.3	3,879.18

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 594,813百万円 2020年3月期 562,753百万円

(注) 2021年3月期第1四半期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2020年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		70.00		80.00	150.00
2021年3月期		75.00			
2021年3月期(予想)				75.00	150.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,200,000	4.2	106,000	3.2	108,000	4.5	66,000	2.0	454.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2021年2月9日)公表いたしました「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1 社 (社名) 明治食品(広州)有限公司、除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、[添付資料]14ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期3Q	152,683,400 株	2020年3月期	152,683,400 株
------------	---------------	----------	---------------

期末自己株式数

2021年3月期3Q	7,583,947 株	2020年3月期	7,613,416 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期3Q	145,085,908 株	2020年3月期3Q	145,054,292 株
------------	---------------	------------	---------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]8ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算短信補足説明資料の入手方法について)

決算短信補足説明資料は決算短信に添付しTDnetで開示しております。また、当社ホームページにも同日掲載いたします。

(アナリスト・機関投資家向け電話会議資料の入手方法について)

当社は、2021年2月9日(火)にアナリスト・機関投資家向けの電話会議を開催する予定です。この電話会議におけるプレゼンテーション資料および音声情報は、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	8
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	11
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	14
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	14
(追加情報)	14
(セグメント情報等)	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「2020中期経営計画」の最終年度を迎え、基本コンセプト「継続的戦略課題への取り組み」と「成長に向けた新たな挑戦」に基づき、「コア事業での高シェア・高収益の実現」「海外市場での成長基盤の確立に向けた積極的な事業拡大」「健康を軸とした新たな価値領域での仕掛け」「構造改革の継続的な実行と個別事業課題の克服」「経営基盤の進化とサステナビリティの推進」に向けた取り組みを進めております。

2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、食品セグメントでは個人消費動向が不安視され、医薬品セグメントでは医療機関受診患者数が大幅に減少していることに加えて薬価改定の影響を受けるなど、厳しい環境下にあります。しかしながら、両セグメントともに生活に必要な食品・医薬品の安定供給に万全を期すとともに、費用の効率的な支出に取り組んでいます。また「2020中期経営計画」に沿って、コア領域・成長領域に経営資源を重点的に投下し、生産性の向上の取り組みも着実に推進しています。

当第3四半期連結累計期間の売上高は9,007億28百万円（前年同期比5.3%減）、営業利益は832億27百万円（同3.6%増）、経常利益は843億84百万円（同3.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は494億7百万円（同5.8%減）となりました。

（単位：億円）

	2020年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減額	主な増減要因
売上高	9,511	9,007	△504	詳細はセグメント別の概況に記載
営業利益	803	832	28	詳細はセグメント別の概況に記載
営業外収益	41	34	△6	為替差益+6、他△13
営業外費用	27	22	△4	為替差損△4
経常利益	817	843	26	—
特別利益	16	14	△1	固定資産売却益△6、 投資有価証券売却益△4、 関係会社株式売却益+9
特別損失	56	63	7	減損損失+2
税金等調整前 四半期純利益	778	795	16	—
法人税等	232	258	25	—
非支配株主に帰属する 四半期純利益	21	42	21	KMバイオロジクスの増益
親会社株主に帰属する 四半期純利益	524	494	△30	—

当社グループでは、世界的な脅威となっている新型コロナウイルス感染症の予防に貢献すべく、ワクチンの開発・供給の取り組みを次のとおり進めています。

当社の事業子会社であるKMバイオロジクス株式会社では、国立感染症研究所、東京大学医科学研究所、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所と協業し、新型コロナウイルス感染症に対する不活化ワクチンの開発を進めています。2020年5月に国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が実

施する創薬支援推進事業の公募研究開発課題「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するワクチン開発（企業主導型）」1次公募に採択され、8月には同2次公募にも採択されました。9月には非臨床試験を開始しており、今期中に国内臨床試験を開始すべく準備を進めています。加えて、この不活化ワクチンを国内に早期供給すべく、7月に厚生労働省「ワクチン生産体制等緊急整備事業（第1次公募）」の事業者に採択され、生産に必要な設備の整備も進めています。

また2020年6月に、当社の事業子会社である Meiji Seika ファルマ株式会社とKMバイオロジクス株式会社は、アストラゼネカ株式会社が日本へ導入する新型コロナウイルスワクチンについて、国内安定供給に向けた協議を進めることに合意しました。2021年2月には、Meiji Seika ファルマとKMバイオロジクスはそれぞれアストラゼネカ社と業務委受託契約を締結しました。契約に基づき、KMバイオロジクスは「新型インフルエンザワクチン開発・生産体制整備事業」で整備した設備を活用してアストラゼネカ社から供給される原液を製剤化（バイアル充填・包装）します。Meiji Seikaファルマは自らが保有するワクチン流通・供給体制を活用してアストラゼネカ社のワクチンの保管・配送を担当し、KMバイオロジクスが製剤化する分を含め1億2,000万回分を国内に供給する予定です。また、必要に応じて情報提供や安全性情報の収集を実施します。

セグメント別の概況は次のとおりです。

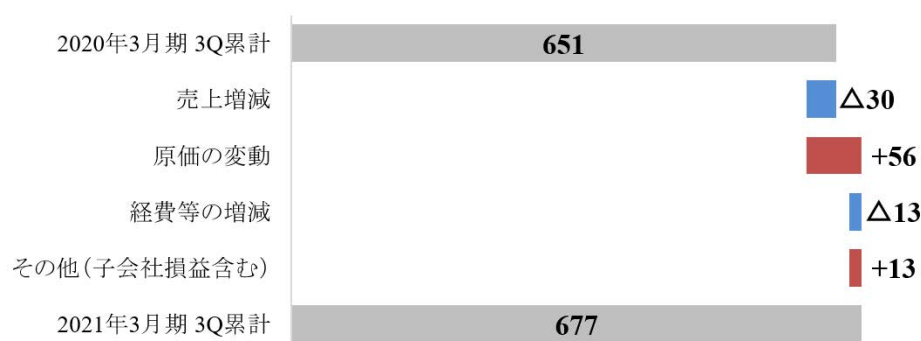
①食品セグメント

- ・売上高は前年同期を下回りました。栄養事業や海外事業は前年同期を上回り、発酵デューリー事業や加工食品事業は前年同期並みとなりました。菓子事業は前年同期を下回りました。また、その他国内子会社は、株式譲渡により3社が連結対象子会社から除外されたことなどにより、前年同期を大幅に下回りました。
- ・営業利益は前年同期を上回りました。減収の影響を販促費などのコストコントロールによりカバーしました。

(単位：億円)

		2020年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減率
食 品	売上高	7,966	7,584	△4.8
	営業利益	651	677	4.0

営業利益増減分析 (単位:億円)



※食品セグメントでは、2021年3月期より一部事業において原価計上方法を変更しており、上記の営業利益増減分析にはその内容を反映しております。

グループ会社からの仕入品の原価を2020年3月期までは全て製造直接費として「原価の変動」に計上しておりましたが、2021年3月期より製造直接費と製造間接費に分けて計上しております。これにより、製造直接費が減少し「原価の変動」で48億円の増益要素となり、製造間接費は増加し「経費等の増減」で48億円の減益要素となっております。

事業別の概況は次のとおりです。

(単位：億円)

売上高				営業利益			
	2020年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減率		2020年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減率
発酵 デイリー	2,435	2,416	△0.8	発酵 デイリー	321	407	26.9
加工食品	1,390	1,382	△0.6	加工食品	75	63	△17.0
菓 子	891	823	△7.7	菓 子	145	98	△32.4
栄 養	713	727	1.9	栄 養	136	131	△3.6
海 外	358	368	2.7	海 外	12	12	0.4
その他 国内子会社	2,177	1,866	△14.3	その他 国内子会社	29	28	△3.0
				全社共通費	△69	△64	—

【発酵デイリー事業】 (ヨーグルト、牛乳類、飲料等)

- ・売上高は、体調管理意識の高まりや巣ごもり消費の拡大を背景に、プロバイオティクスやヨーグルト、「明治おいしい牛乳」は増収となりました。また「ザバスミルクプロテイン」は大幅な増収となりました。しかし、一部商品の販売終了や販売エリア縮小の影響により、全体では前年同期並みとなりました。
- ・営業利益は、プロバイオティクスの増収に加え、販促費や減価償却費などの減少により前年同期を大幅に上回りました。

【加工食品事業】 (チーズ、バター・マーガリン、クリーム、アイスクリーム、冷凍食品等)

- ・売上高は、家庭内需要の拡大により市販アイスクリームや市販チーズは好調に推移しました。外出自粛要請などの影響を受けた業務用食品は徐々に回復しましたが、第1四半期の大幅な減収をカバーできず、全体では前年同期並みとなりました。
- ・営業利益は、物流費や減価償却費などの増加により前年同期を大幅に下回りました。

【菓子事業】 (チョコレート、グミ、ガム等)

- ・売上高は前年同期を下回りました。「きのこの山・たけのこの里」や健康志向チョコレートは好調に推移しましたが、コンビニエンスストア向け商品が減収となり、チョコレート全体では減収となりました。また、グミやガムは通勤・通学やオフィス需要の減少により、大幅な減収となりました。
- ・営業利益は、販促費などの経費削減に努めましたが、減収の影響により前年同期を大幅に下回りました。

【栄養事業】 (スポーツ栄養、乳幼児ミルク、流動食、美容、OTC等)

- ・売上高は前年同期を上回りました。スポーツプロテイン「ザバス」は、運動不足解消ニーズの高まりや顧客層の拡大により大幅な増収となり、流動食「明治メイバランス」も好調に推移しました。一方、インバウンド需要の減少により乳幼児ミルクは減収となり、スポーツアミノ酸「ヴァーム」はスポーツイベントの減少により大幅な減収となりました。
- ・営業利益は、経費削減に努めましたが、2019年11月に稼働した粉末プロテイン工場の減価償却費の増加などにより、前年同期を下回りました。

【海外事業】 (海外子会社、輸出)

- ・売上高は前年同期を上回りました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中国子会社の菓子事業や牛乳・ヨーグルト事業は減収となりましたが、アイスクリーム事業は巣ごもり消費の拡大により増収となりました。また、米国子会社は増収となりました。
- ・営業利益は前年同期並みとなりました。中国子会社の菓子事業や牛乳・ヨーグルト事業は苦戦しましたが、中国子会社のアイスクリーム事業や米国子会社は増益となりました。

【その他国内子会社】 (飼料、砂糖および糖化穀粉、物流等)

- ・売上高は、畜産品などの子会社3社が株式譲渡により連結対象子会社から除外されたことに加え、物流子会社や砂糖商社などの減収により、前年同期を大幅に下回りました。
- ・営業利益は、物流子会社などの減益により前年同期を下回りました。

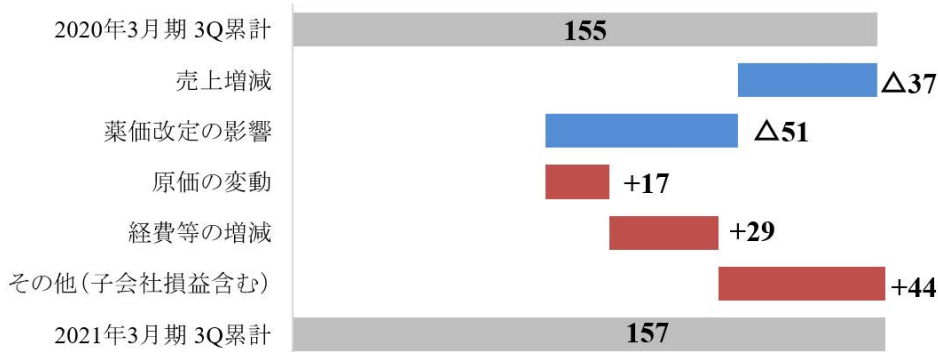
②医薬品セグメント

- ・売上高は前年同期を下回りました。国内事業は、薬価改定に加えて新型コロナウイルス感染症拡大の影響により前年同期を下回りました。海外事業も同感染症拡大の影響により、前年同期を大幅に下回りました。KMバイオロジクスは主力品の増収により、前年同期を大幅に上回りました。
- ・営業利益は、国内事業は大幅な減益となりましたが、海外事業とKMバイオロジクスは大幅な増益となり、全体では前年同期を上回りました。

(単位：億円)

		2020年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減率
医薬品	売上高	1,554	1,434	△7.7
	営業利益	155	157	1.0

営業利益増減分析 (単位:億円)



事業別の概況は次のとおりです。

(単位：億円)

売上高				営業利益			
	2020年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減率		2020年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	対前年同期 増減率
国内	1,095	1,048	△4.3	国内	97	26	△72.5
海外	332	281	△15.5	海外	25	36	44.0
KMバイオ ロジクス	295	327	10.7	KMバイオ ロジクス	21	75	246.0
消去	△169	△222	—	修正・消去	10	18	—

【国内事業】

- ・売上高は前年同期を下回りました。接種意向の高まりを背景にインフルエンザワクチンは大幅な増収となりました。一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて医療機関受診患者数が減少したことにより、抗菌薬「メイアクト」やジェネリック医薬品は大幅な減収となりました。抗うつ薬「リフレックス」も薬価改定の影響により大幅な減収となりました。
- ・営業利益は前年同期を大幅に下回りました。経費削減に努めましたが、主力品の減収と薬価改定の影響を大きく受けました。

【海外事業】

- ・売上高は前年同期を大幅に下回りました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた中国の子会社は、大幅な減収となりました。
- ・営業利益は、インドネシアやインドの子会社などにおける経費削減が寄与し、前年同期を大幅に上回りました。

【KMバイオロジクス】

- ・売上高は、主力のインフルエンザワクチンが大幅に伸長したに加え、B型肝炎ワクチン「ビームゲン」も好調に推移し、前年同期を大幅に上回りました。
- ・営業利益は前年同期を大幅に上回りました。増収の影響に加え、インフルエンザワクチンの生産効率が向上したことや棚卸評価減の金額が減少したことなどが寄与しました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(単位：億円)

	2020年3月期	2021年3月期 第3四半期	対前期末	
			増減額	主な増減要因
流動資産	4,168	4,739	570	受取手形及び売掛金+338、 現金及び預金+206
固定資産	5,820	6,227	407	投資有価証券+374、建設仮勘定+46、 機械装置及び運搬具(純額)+34、 建物及び構築物(純額)△29
資産合計	9,989	10,966	977	—
流動負債	2,565	3,090	525	コマーシャル・ペーパー+270、 短期借入金+170
固定負債	1,448	1,552	103	社債+100
負債合計	4,013	4,642	629	—
株主資本	5,536	5,810	273	利益剰余金+267
その他の包括利益 累計額	90	137	47	その他有価証券評価差額金+53、 退職給付に係る調整累計額+24、 為替換算調整勘定△29
非支配株主持分	348	376	27	—
純資産合計	5,975	6,324	348	—
負債純資産合計	9,989	10,966	977	—
有利子負債	1,067	1,595	527	コマーシャル・ペーパー+270、 短期借入金+170、社債+100
自己資本比率	56.3%	54.2%	△2.1pt	—

②キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	2020年 3月期 第3四半期 累計	2021年 3月期 第3四半期 累計	対前年 同期 増減額	主な増減要因
営業活動による キャッシュ・フロー	581	642	60	法人税等の支払額+138、減価償却費+17、 売上債権の増加△146、たな卸資産の増加△42
投資活動による キャッシュ・フロー	△491	△733	△241	投資有価証券の取得による支出△309、 有形固定資産の取得による支出+72、連結の範囲の変更を 伴う子会社株式の売却による収入+21
財務活動による キャッシュ・フロー	△29	293	323	コマーシャル・ペーパーの増加+140、 短期借入金の純増+116、社債の発行による収入+99
現金及び現金同等物 の四半期末残高	294	566	271	—
フリー・ キャッシュ・フロー	89	△91	△180	—

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

長期化する新型コロナウイルス感染症の拡大により、食品セグメントでは、個人消費動向に低価格志向が見られ、オフィス需要の減少も続いている中、菓子事業などで業績の回復が遅れています。医薬品セグメントでは、受診患者数の回復が想定を大きく下回っており厳しい環境が続いています。

このような経営環境を踏まえ、通期連結業績が2020年5月22日の「2020年3月期決算短信」で公表しました2021年3月期の連結業績予想を下回る見通しであることから、下記のとおり修正いたしました。

■2021年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,253,000	110,000	111,000	69,500	479.05
今回修正予想 (B)	1,200,000	106,000	108,000	66,000	454.90
増減額 (B-A)	△53,000	△4,000	△3,000	△3,500	
増減率 (%)	△4.2	△3.6	△2.7	△5.0	
[ご参考] 前期連結実績 (2020年3月期通期)	1,252,706	102,710	103,326	67,318	464.08

当社グループでは、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、世界で約17,000人の従業員やその家族の安全と健康を確保するため、テレワークの推奨、出張自粛などさまざまな対策を講じております。現時点では生産体制および原材料調達において大きな影響は生じておりませんが、今後も状況変化に応じて必要な対策を速やかに実施することにより安定的な製品供給に努めるとともに、「食と健康」に関わる企業グループとしての責務を果たしてまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	37,446	58,136
受取手形及び売掛金	179,931	213,780
商品及び製品	111,028	112,076
仕掛品	3,729	4,023
原材料及び貯蔵品	58,542	60,367
その他	27,454	27,995
貸倒引当金	△1,247	△2,440
流動資産合計	416,885	473,939
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	353,843	354,766
減価償却累計額	△172,887	△176,711
建物及び構築物 (純額)	180,956	178,054
機械装置及び運搬具	539,437	546,259
減価償却累計額	△384,661	△388,049
機械装置及び運搬具 (純額)	154,775	158,209
工具、器具及び備品	58,049	60,559
減価償却累計額	△43,478	△46,002
工具、器具及び備品 (純額)	14,570	14,557
土地	69,363	67,577
リース資産	3,046	2,857
減価償却累計額	△2,166	△2,173
リース資産 (純額)	880	683
建設仮勘定	23,645	28,333
有形固定資産合計	444,191	447,415
無形固定資産		
のれん	57	46
その他	14,240	14,860
無形固定資産合計	14,297	14,906
投資その他の資産		
投資有価証券	84,598	122,027
退職給付に係る資産	15,500	16,403
繰延税金資産	16,341	14,007
その他	7,171	8,066
貸倒引当金	△66	△67
投資その他の資産合計	123,545	160,437
固定資産合計	582,034	622,759
資産合計	998,920	1,096,698

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	112,317	112,274
短期借入金	30,874	47,890
コマーシャル・ペーパー	-	27,000
未払費用	45,457	44,739
未払法人税等	12,164	12,698
賞与引当金	12,090	5,963
返品調整引当金	256	911
売上割引引当金	1,908	3,134
その他	41,451	54,461
流動負債合計	256,520	309,074
固定負債		
社債	20,000	30,000
長期借入金	55,890	54,653
繰延税金負債	8,399	9,863
退職給付に係る負債	55,410	56,166
役員退職慰労引当金	121	89
その他	5,004	4,427
固定負債合計	144,826	155,200
負債合計	401,347	464,275
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	100,245	100,693
利益剰余金	453,729	480,518
自己株式	△30,288	△30,170
株主資本合計	553,687	581,041
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,968	32,279
繰延ヘッジ損益	53	△28
為替換算調整勘定	△3,279	△6,266
退職給付に係る調整累計額	△14,677	△12,211
その他の包括利益累計額合計	9,066	13,772
非支配株主持分	34,819	37,610
純資産合計	597,573	632,423
負債純資産合計	998,920	1,096,698

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	951,183	900,728
売上原価	602,246	563,474
売上総利益	348,937	337,253
販売費及び一般管理費	268,606	254,026
営業利益	80,330	83,227
営業外収益		
受取利息	171	214
受取配当金	1,279	1,242
為替差益	-	616
その他	2,702	1,382
営業外収益合計	4,153	3,455
営業外費用		
支払利息	555	482
持分法による投資損失	274	231
為替差損	477	-
その他	1,392	1,584
営業外費用合計	2,700	2,298
経常利益	81,783	84,384
特別利益		
固定資産売却益	1,065	421
投資有価証券売却益	598	137
関係会社株式売却益	-	928
特別利益合計	1,663	1,487
特別損失		
固定資産廃棄損	2,044	2,031
減損損失	1,991	2,231
貸倒引当金繰入額	1,096	1,078
その他	475	1,026
特別損失合計	5,607	6,368
税金等調整前四半期純利益	77,839	79,503
法人税等	23,256	25,821
四半期純利益	54,583	53,682
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,140	4,274
親会社株主に帰属する四半期純利益	52,443	49,407

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	54,583	53,682
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△550	5,336
繰延ヘッジ損益	△4	△84
為替換算調整勘定	△2,165	△2,772
退職給付に係る調整額	1,581	2,422
持分法適用会社に対する持分相当額	△374	△309
その他の包括利益合計	△1,513	4,593
四半期包括利益	53,070	58,275
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	50,982	54,113
非支配株主に係る四半期包括利益	2,088	4,161

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	77,839	79,503
減価償却費	34,310	36,097
減損損失	1,991	2,231
のれん償却額	29	11
有形固定資産除却損	2,039	2,024
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,122	1,194
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△5,850	△6,000
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	2,248	4,009
受取利息及び受取配当金	△1,450	△1,456
支払利息	555	482
持分法による投資損益 (△は益)	274	231
有形固定資産売却損益 (△は益)	△1,041	△387
関係会社株式売却損益 (△は益)	-	△928
売上債権の増減額 (△は増加)	△19,195	△33,848
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△385	△4,593
仕入債務の増減額 (△は減少)	△815	△17
その他	1,206	7,836
小計	92,877	86,389
利息及び配当金の受取額	1,860	1,975
保険金の受取額	1,432	-
利息の支払額	△533	△470
法人税等の支払額	△37,511	△23,692
営業活動によるキャッシュ・フロー	58,124	64,203
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△50,299	△43,064
無形固定資産の取得による支出	△2,063	△3,275
有形及び無形固定資産の売却による収入	2,044	2,317
補助金の受取額	-	2,030
投資有価証券の取得による支出	△1,201	△32,160
投資有価証券の売却による収入	609	270
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	0	2,154
その他	1,741	△1,610
投資活動によるキャッシュ・フロー	△49,169	△73,338
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	8,063	19,674
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	13,000	27,000
長期借入れによる収入	358	2,267
長期借入金の返済による支出	△3,454	△6,009
社債の発行による収入	-	9,957
自己株式の増減額 (△は増加)	280	248
配当金の支払額	△20,937	△22,374
非支配株主への配当金の支払額	△154	△607
その他	△102	△767
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,946	29,390
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,017	△736
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,991	19,518
現金及び現金同等物の期首残高	24,481	37,110
現金及び現金同等物の四半期末残高	29,473	56,629

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(追加情報)

(オーストアジア社の株式取得の概要)

当社の連結子会社である株式会社明治は、AustAsia Investment Holdings Pte LTD. (以下、「オーストアジア社」) の株主であるJapfa LTD. と2020年4月15日にオーストアジア社の株式の一部を取得することに合意し、2020年7月3日に25.0%の株式を取得したことに伴い、オーストアジア社は持分法適用関連会社となりました。

なお、被投資会社オーストアジア社の概要は以下の通りです。

商号 (被投資会社の名称)	AustAsia Investment Holdings Pte LTD.
主な事業内容	中国における生乳生産事業など
持分法適用開始日	2020年7月1日
株式取得後の議決権比率	25%
その他	オーストアジア社は、2020年4月に行われた事業再編により、中国において生乳生産事業を中心に従事する会社となりました。

(1) 当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれている被投資会社の業績の期間

被投資会社であるオーストアジア社の決算日は12月末日であり、連結決算日と3ヶ月異なっております。

オーストアジア社に対する持分法適用開始日は2020年7月1日であるため、当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書には、被投資会社の2020年7月1日から2020年9月30日までの業績を持分法による投資利益に含めております。

(2) 実施した会計処理の概要

① 被投資会社の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	27,805百万円
取得に直接要した費用	アドバイザー費用等	734百万円
取得原価		28,540百万円

② 発生した投資有価証券に含まれる「のれん」の金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(i) 発生した投資有価証券に含まれる「のれん」の金額

2,114百万円

なお、第2四半期連結会計期間において四半期連結財務諸表作成時点における入手可能な合理的情報に基づき、取得原価の配分について暫定的な会計処理を行っていましたが、当第3四半期連結会計期間に確定しております。

(ii) 発生原因

今後の事業展開を通じて期待される将来の超過収益力により発生したものであります。

(iii) 償却方法及び償却期間

10年間で均等償却

③発生した投資有価証券に含まれる、のれん以外の無形固定資産に配分された金額及び種類並びに償却期間

種類	金額	償却期間
顧客関連資産	11,725百万円	10年

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	796,222	154,961	951,183	-	951,183
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	450	487	937	△937	-
計	796,672	155,448	952,121	△937	951,183
セグメント利益	65,148	15,587	80,736	△405	80,330

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△405百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに
配分していない全社費用△411百万円が含まれております。全社費用は当社(持株会社)運営に係
る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれん発生益はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2020年4月1日 至2020年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	食品	医薬品			
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	757,935	142,792	900,728	-	900,728
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	491	648	1,140	△1,140	-
計	758,426	143,441	901,868	△1,140	900,728
セグメント利益	67,767	15,737	83,505	△278	83,227

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△278百万円には、セグメント間取引消去6百万円、各報告セグメントに
配分していない全社費用△284百万円が含まれております。全社費用は当社（持株会社）運営に係
る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な負ののれん発生益はありません。